3月定例会 町政を問う

一般質問

大豆は種作業

Q 転作を団地化で A JAと協同で進める

長島 正一 議員

本町では今年から3年間で、転作増加40haを実施することになる。効率の良い団地化や担い手育成、農家や認定農業者の所得向上を図るべきだが、次の6点を問う。

①昨年と今年の転作状況。

②大豆等戦略作物の全町ブロックローテーション。

③合併後における認定農業者の育成実績。

④農地集積に関し、白紙委任と農地利用集積円滑化事業について。

⑤大豆や飼料米でなく、投資のいらない加工用米や米粉による6次産業化の考え。

⑥有害鳥獣に対する行政の取り組み。

山碕 英樹 町長

①昨年の団地化での転作面積は大豆40・8ha、そば7ha、飼料作物1.4ha。今年は大豆45・8ha、そば19ha、飼料用米2ha、ホールクロップサイレージ2ha、飼料作物1.4haを計画している。

②とも補償はJA雲南管内で行う考えだが、とも補償によるブロックローテーション化も有効と考えられるので、関係者と相談する。

③平成18年から3年間で、担い手や法人数は16件71・8haを集積している。

④白紙委任による面的集積は課題が多く検討中。

農地利用集積円滑化事業は、集落営農等を束ね、その上に組織化する2階建てが重要になると考えており、JAとともに進める。

⑤米粉の研究は停滞している。転作はJAと協議していく。

⑥猟友会と集落や農業者による協議で対策。国の事業で集落単位に防護柵を設置。猟友会への活動費を充実。の3点で取組む。

Q 豪雪対策を問う A 体制整備を進める

長島 議員

住民に安心感を与えることを目標とする本町だが、今回の豪雪では、住民から「年をとったらこの町には住めない」との声があった。次の点をどう考えるか。

①豪雪対策本部を設置しなかった理由は。

②連坦地の町道に落とされた屋根の雪は町が除雪し、また、消雪水路等の問題は住民の意見を聞き反映すべきだ。

③地区担当職員の有効活用や担い手づくりで、集落共助の仕組みづくりを。

④消防団の広域応援体制の充実や、除雪ボランティアの受け入れの考えは。

山碕町長

①雪害については予防会議で警戒態勢をとった。1月31日、職員による見回りを実施し、緊急性は無いと判断した。

②路上に降ろされた雪は道路除雪とあわせて排雪しているが、地域と相談し、一斉に雪降ろしをするしくみを確立する必要がある。

雪降ろしの助成は、必要な方にはすべきだと思っている。

流雪溝は水量不足箇所もあり、部分改修や新設を検討する。

③集落の体制が整えば、集落活性化支援事業で小型除雪機の配備を考える。

④道路除雪会議があるが、雪降ろし関係者の会議も必要と考える。都市からのボランティア受け入れは体制整備が重要。関係者で検討する。

Q 教育環境に最善を A 原因究明し整備

熊谷 兼樹 議員

雪害で頓原小学校が破損し、児童の教育環境は窮屈な状況にある。

原因の究明、責任の所在の追求も重要だが、まず児童の教育環境を、現状で考えられる最善の対応をすべきだ。

安部 亘 教育長

原因究明、責任の問題等を解決しないと、復旧方法や工法も決められないという現状もある。

児童の教育環境は重要なので、プロジェクトチームを立ち上げ、情報を提供しながら整える。

Q 飼料用米はリスクがある A 施設近くでの栽培を

熊谷議員

飼料用米の栽培は、主食用米への混入が心配されるなどの多段階において混入リスクがあるが、どう考えるか。

飼料用米の乾燥調整施設は、雲南市大東町にあるが、本町で栽培された物を輸送するのは非効率ではないか。

山碕 英樹 町長

乾燥・調整については、大東町の施設で対応し、専用機械を整備する。

また、施設の近くでの栽培を基本と考える。

種まき準備作業

Q とも補償の再考を A 雲南全域の視点で

熊谷議員

県下の良質米生産地帯として、連携を深めることは重要だ。1市2町での事業なので、より効率的に運用できるよう、とも補償システムを再考してはどうか。

山碕町長

かつてJA雲南では、とも補償をした経過がある。それを活用しながら、オール雲南の視点で適地適作を推進する。

収穫作業とサイレージ

Q 耕畜連携の推進を A 実証実験で対応

熊谷議員

耕畜連携の推進は地力維持に不可欠であり、その中でも衰退傾向にある畜産振興は重要な課題。その一つの解決策としてホールクロップサイレージ※(WCS)用稲の栽培とコントラクター(農作業受託組織)の育成を提案するが、町長の考えは。

山碕町長

耕畜連携の意味から、WCS用稲とコントラクターは魅力のある考え方で、町の水田協でも畜産農家代表から提案を頂いている。

水田の輪作体系としても有効と考え、23年度に本町で実証実験を行う。

※ホールクロップサイレージ(WCS)とうもろこしや稲のように、従来は子実をとることを目的に作られた作物を、繊維の多い茎葉部分と栄養価の高い子実部分を一緒に収穫してサイレージに調整したもの。